

# 先端技術導入で震災地域の農業復興へ 被災三県（岩手・宮城・福島）が連携して取組む

## 平成23年3月11日 東日本大震災発生

・平成24年度（平成25年度）～平成29年度

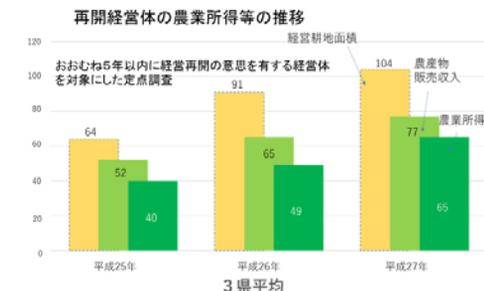
食料生産地域再生のための先端技術展開事業（農林水産省委託先端プロ）

### 被災地域を新たな食料生産地域として再生する 先端的な農林水産技術を駆使した大規模な実証研究の実施

震災前の農業所得水準を100  
とすると、平成27年では、まだ  
65程度でした。



被災地域を新たな食料生産地域として再生する。



平成25年までの販売収入が震災前の水準に達しなかった経営体

\*震災前(平成22年)=100

農林水産省大臣官房統計部報告書より

復旧・復興が進み、震災、特に津波で被害を受けた水田等は、外観上、ほぼ元に戻り大区画ほ場に整備されています。



被災地域を新たな食料生産地域として再生する。

岩手県陸前高田市沿岸部風景



被災地域を新たな食料生産地域として再生する。

宮城県仙台市沿岸部、岩沼市沿岸部風景



被災地域を新たな食料生産地域として再生する。

福島県いわき市沿岸部風景



避難指示が解除された  
区域が広がり、営農再開  
へ動いています。



## 被災地に技術体系の迅速かつ広範な社会実装を図る。

先端技術展開事業社会実装促進業務「農業分野」の実施課題

「先端技術展開事業」において得られた実証研究成果を、3県で連携し、社会実装を促進する。

・平成30年度～令和2年度第2期  
先端プロの実施

岩手県拠点	宮城県拠点	福島県拠点
<ul style="list-style-type: none"> <li>■鉄コーティング漏水直播等の省力化技術 (岩手農研)</li> <li>■イグネシアの被覆による法面管理の省力化技術 (岩手農研・岩手農研センター)</li> <li>■施設野菜における環境制御技術 (岩手農研)</li> <li>■イチゴの長期どり栽培作型 (岩手農研)</li> <li>■醸造用ブドウの省力垣根仕立て栽培技術 (岩手農研)</li> <li>■水稲育苗ハウス利用パブリカ栽培、キュウリの灌水同時施肥技術 (岩手農研)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■大区画圃場におけるブドウ耕乾田直播 (東北農研・古川農研・宮城農研)</li> <li>■既存施設を活用した水稲の低コスト栽培技術 (古川農研・宮城農研)</li> <li>■キャベツ等露地野菜の安定生産技術 (宮城農研)</li> <li>■水稲育苗ハウスの有効利用技術 (宮城農研)</li> <li>■イチゴクラウン温度制御 (宮城農研)</li> <li>■イチゴにおける総合的病害虫管理(IPM) (宮城農研)</li> <li>■ブドウ「シャインマスカット」栽培技術 (宮城農研)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■電照栽培技術による小年干し生産 (福島農研センター)</li> <li>■トルコギョキョウと低温性花き組み合わせ技術・トルコギョキョウ水耕栽培技術 (福島農研センター)</li> <li>■UVBランプ利用による病害抑制技術 (福島農研センター)</li> <li>■ナシの早期成圃化技術 (福島農研センター)</li> <li>■性選別精液による定時人工授精技術 (福島農研センター)</li> <li>■水稲乾田直播栽培技術 (福島農研センター)</li> </ul>

食料生産地域再生のための  
先端技術展開事業(農業分野)

- 被災地復興に貢献する農業技術の研究開発・社会実装
- さらに、広い地域への普及へ



# プラウ耕・グレーンドリル播種体系による乾田直播

プラウ耕・グレーンドリル播種体系の乾田直播では、労力のかかる育苗や田植えの必要がなく、大幅な省力化・低コスト化が可能。



スタブルカルチ



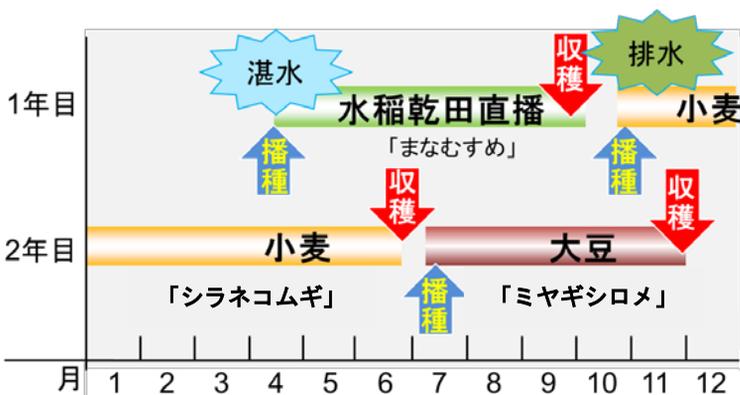
グレーンドリル



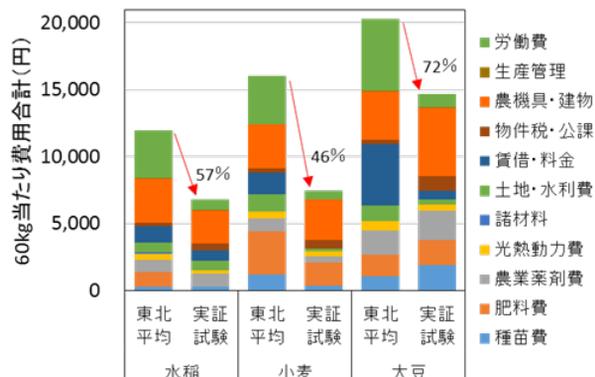
ケンブリッジローラ

## ■実証試験（2年3作体系）

グレーンドリルは麦、大豆栽培にも利用でき、東北地域の太平洋側南部では、プラウ耕・グレーンドリル乾田直播の播種体系を、麦、大豆にも適用した2年3作体系が可能である。大区画圃場での3年間の実証試験の収量は、乾田直播533kg/10a、小麦403kg/10a、大豆226kg/10a。また60kg当たりの費用合計を試算したところ、東北平均と比較すると水稲57%、小麦46%、大豆72%となった。費用構成でみると労働時間の減少に伴う労働費の低減効果が大きい。



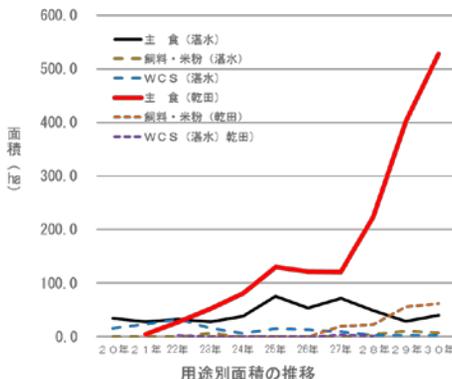
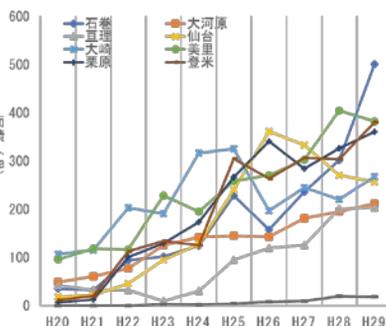
プラウ耕・グレーンドリル播種方式2年3作体系



コスト低減効果

## ■仙台平野での普及状況

石巻市を中心に、JA・普及センター・東北農研センターの連携で、2009年から数ha規模で始まった。2011年の東日本大震災被災後の復興庁・農林水産省の実証事業により、仙台平野南部で導入する農業法人が増加している。



プラウ耕・グレーンドリル播種体系による乾田直播を導入している主な農業法人

